

トラック 5

(♪ 雨)

(♪ 家のチャイム)

(♪ 足音)

(♪ 開閉音)

…こんばんは。

DMで話してたら…直接会いたくなっちゃって。今日非番だって言ってたから、来ちゃいました。

何か邪魔しちゃいましたか…？

(「大丈夫だよ」)

…それなら。

え？ ああ、通り雨みたいですね。ちょっと濡れちゃいました。

(「とりあえず入って」)

すみません。 お邪魔します。

(♪ 開閉音)

え、ココア…？

ううん、飲みます。 はい、温かいので。お願いします。

…俺の好きなもの、覚えててくれたんだ。びっくりした。

先座ってますね。

(♪ソファの軋み)

今日？ は、普通に学校でした。

ううん、一回家に帰ってから…ここに。

っ……何もないですよ。

本当に、何もないですから。

いつもこのテンションです。

…あ、ありがとうございます。 いただきます。

タオルまで…すみません。

(♪ヒロインがソファに座る音)

…お姉ちゃん。

この間は、すみませんでした。

すごい嫌な態度とった上に、あんな、強引に…。

…でも、俺すごい冷たいこと言ったし…、

傷つけたかなって、心配で…。

う…気にしますよ、あれからずっと気にしていました。

…援助がなくなるのも、確かに困りますけど、

それよりも…、

お姉ちゃんと会えなくなるのは嫌だなって、なんとなくですけど、強く思って…。

ちゃんと謝らなきゃって、ずっと考えてました。

もう見限られたかもしれないですけど…。

…本当？

俺のこと、嫌になってないですか…？

…はあ、よかった…。

お姉ちゃんにまで否定されたら、俺さすがにもう生きる意味ない。

（「やっぱり何かあったんでしょ？」）

……うん。

本当は…家で、色々あって、出てきました。

長くなりますけど、いいですか…？

…家に居たくないんです。

…俺が中学の時から、両親が不仲で。

家にいると、どっちかが必ず相手のこと嫌そうにしてるんです。

そういうの、子供ってすごい敏感に感じ取るから、

同じ空間にいるのが、すごく苦痛で…。

学校も…友達って呼べる友達はいないから、

教室にいるのも、なんか息苦しいし。

だから、どうにか気が休まる逃げ場が欲しくて、

学費も元々自分で払うつもりでいたので、

高1の時にバイト始めたんですけど、

そこがブラック過ぎたんですよ。

嫌がらせとか暴行とか普通にあったし、
でも店長は見て見ぬ振りで、
なのに俺が辞めようとする脅してくるし、
しかも、その時はよくわかってなかったけど、
後から考えるとセクハラだと思えることまでされました。

さすがに病んで、体壊して、そこのバイトは辞めたんですけど、
でもお金はどうしても必要だったから。

それから始めたんです、援交。
家に居なくてもいいし、
お金もらえるし、
…。

今日…、学校終わって家帰ったら、親が喧嘩してて。
聞いてたら、俺の進路のことで言い合いしてたんですよ。
恐らく学費のことだと思います。

俺は見てないふりして自分の部屋に入ろうと思ったんですけど、
そしたら
「お前は食って寝るだけの生活でいいな」って言われて。

「食って寝るだけ」って、
俺そんな気楽に生きてるように見えるのかなあ。
好きでもない女の人とかおっさんとセックスするの、
楽ではないんだけどな。
それで稼いだお金家に入れてるし、
家のことだって、二人がいない間にかなり色々やってます。
ほったらかしにしてたら今以上に家の中荒れてるの、親はわかってないんですよ。

それで、今日はなんでか我慢できなくて反論したんです。

そしたら、「誰がここまで育ててやったと思ってるんだ」って怒鳴られて、頭叩かれました。

勝手に産んだのそっちなのに。

まあでも、しょうがないかもしれないですね。

…俺、高校受験失敗してるので。

行きたかった高校落ちたから、

私立に行って。

私立って、公立よりお金掛かるじゃないですか。

その上、塾代もかかったのに合格しなかったから、

俺のことゴミだとでも思ってるんじゃないですか。

「お前なんか産まなきゃよかった」

って言われた。

それ聞いたらもう何も言葉が出てこなくて…、

もう、どうしようもなくなって、

黙って家出てきたんです。

そしたら、DMでもお姉ちゃん、相変わらず優しいから、

だから無性に会いたくなって…。

遅い時間だったわかったのに、無理に訪ねてしまいました。

…すみません、こんな…、…！

（ヒロインに抱きしめられる）

お姉ちゃん…、ん…っ

ど、どうしたんですか、いきなり抱きしめて。
離して…っ

お姉ちゃん…っ

（「素直に話していいんだよ」）

（以降震えた声・涙声で）
…ほ、本当は、
本当は…っ

そんなこと、絶対言われたくなかったし、
こんな嫌な思い、したくなかった

じ、自分に生きてる価値ないっていうの、自分で一番わかってるけど、
でも、どっかで、誰かに自分のこと認めて欲しくて、
必要として欲しいって思ってて、
ダメな自分でも、何の役にも立たない自分でも、
それでもいいよって、言ってくれる人が欲しかった。

辛かった。
すごく、傷ついたし、
毎日生きるのしんどくて、
俺なんか、いてもいなくても世の中変わんないんじゃないか、
だったら死んじゃった方が良くない？って、
何回も思って、
でもすぐ死ねるほどの勇気なんか、ないし、
何で生きてんのかももう、よく、わからなくなっちゃった…っ

でも、援交やり始めたら
こんな生きる価値ない俺でも、必要だって思ってくれて、
生きてていいんだって、思える時があって。

けど実際は、俺を誰かとか、何かに当てはめて利用してるだけで、
本当に俺を求めているわけじゃないし、
それを、ふとした時に感じてしまうのが、悲しかった。

本当は、俺を、欲しがって欲しいのに、そういうの全然ないんです。当然なんですけど。

高価なお飯とか、お金なんか要らないから、
ただ、一緒にいて、
優しくして欲しかったです。

ずっと、寂しかった。

…親が不仲になったのも、
信頼できる友達がいらないのも、
全部、上手くできない俺が悪いんですけどね。

お姉ちゃんなら、そんな俺でも優しくしてくれるって、
わかってて来たんです。

俺だって、前の人たちと同じです。
都合のいい人を利用してる。
…ごめんなさい。

（ヒロインに撫でられる）
…こんな汚い俺のこと、優しく触ってくれるのお姉ちゃんだけだよ。
俺のこと守ったら、お姉ちゃんも汚れちゃうよ。

(再度抱きしめられる)

俺のこと、否定しないの？

けなさないの？

俺…本当にダメな出来損ないなのに。

あはは。

…全部わかったふりして、何もわかってなかったじゃん、俺。

…本当は、俺がずっとうこうして欲しかったんだ。

あの。

もっと、ぎゅってして…？

(♪抱きしめる音)

…あったかいなあ。

熱出たかな。

こんな話、今まで誰にもしなかった。

嫌なことあっても、誰にも言えなくて…。

なんか、放心状態です。

頭の中ぐちゃぐちゃになって泣いたの、初めてですよ。

本当にありがとう…お姉ちゃん。

…ん？

え、お風呂…！？

あれ、冗談だったんだけどな。

…いいんですか？ 一緒に…。

ううん、お姉ちゃんがいいなら…一緒に入りたい、です。

<場面転換>

(♪お風呂の水滴)

(♪湯船入ってる感じの)

…狭くないですか？

なんか、俺が入ったせいで一気にお湯溢れた気がする…ゴメンナサイ。

はあ。

見せないつもりだったとこ、全部見せちゃった。

…でも、すごく嬉しかった。

(キス一回)

…お礼のキスです。

…あの。　もっとくっついていいですか？　…うん。

(♪水音)

なんか、一気に眠くなってきた…。
ちゃんと湯船に浸かったのも、久しぶりだろう…。

今度、泡風呂とか入りたいですね。
お姉ちゃんとは楽しいこと、いっぱいしたいです。
あー、ううん。
お姉ちゃんがいれば、何でも楽しいのかも。ふふ。

…どうしてこんなに、お姉ちゃんには何でも見せていいって思う
んだろう。
どうして俺のこと、ここまで気にかけてくれるんですか？

…「助けてほしそうだった」…？　俺が？

…。

やっぱりお姉ちゃんといると、
調子狂うから、やだ。

今まで誰も気づかなかったところ突っついてきて。
そういうことから、自分が自分じゃなくなってくみたいで、
かなり、戸惑ってます。
…お姉ちゃんのせいですよ。

でも気づいてくれなかったら、多分俺、戻れないところまで行っ
てた。

…お姉ちゃんが正しい道に引き戻してくれたってことですよ。

やっぱり、お姉ちゃんは他の人と違います。

…お姉ちゃん。

これから家に居たくないときは、こっちに来てもいいですか？

…！　ありがとうございます…っ

どうしようかな。

ご飯とか作って待ってたいな。

最初に言いましたし、俺にできることがあればなんでもするって。

…ええ、良いですよそんな。　もう既に色々してもらってますし…。

う…お姉ちゃんって結構頑固ですよね…。

ん…じゃあ。

お祭り。

お祭りに行きたい。

今度近くの神社であるじゃないですか。　一緒に行ってほしい、です。